# 平成26年度授業シラバスの詳細内容

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名(英)** | 設計製図2(Atelier Practice of Design and Drawing 2) | | | **授業コード** | C185151 |
| **担当教員名** | 島岡　成治、廣田　篤彦、西村　謙司、安藤　剛 | | | **科目ナンバリングコード** | L20307 |
| **配当学年** | 2 | **開講期** | 後期 | | |
| **必修・選択区分** | 建築コース(選択必修)<br>インテリアデザインコース(選択必修)<br>環境・地域創生コース(選択) | **単位数** | 2 | | |
| **履修上の注意または履修条件** | 「製図」、「設計製図1」および「建築計画1」を受講しておいて下さい。 | | | | |
| **受講心得** | 担当指導教員によるエスキスチェックは毎週受けることを原則とします。また、エスキスチェックを受けない者、および提出期限後の課題提出は認められないので注意して下さい。 | | | | |
| **教科書** | コンパクト建築設計資料集成(丸善)　日本建築学会編 | | | | |
| **参考文献及び指定図書** | 建築設計課題のプレゼンテーションテクニック(彰国社)　吉田研介著<br>建築設計資料(建築資料研究社)　建築思潮研究所編 | | | | |
| **関連科目** | 製図、設計製図1、建築計画1など。 | | | | |

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 建築設計の基本的知識と基礎的能力を養成することを目的とします。課題は合計2課題あり、それぞれにおいて、建築設計を進めていく上での基本的プロセス・手法や機能的な平面計画、合理的な構造計画、明確に意図され秩序づけられた空間構成、適切な図面表現など設計の基礎的能力を習得します。 |
| **授業の概要** | 第1課題「大学構内のレストハウス」は、身近な当大学構内の敷地をケーススタディとして、学内に相応しい、かつ魅力ある空間の在り方を模索・提案していく課題であり、特にその創作課程において、課題主旨の読み取りや、敷地の持つ場所性(意味・特色)、周辺環境条件との関わりなど学習します。第2課題「アーバンスモールオフィスビル」では、小規模で機能的に単純な建築課題の設計演習を行うことによって、設計の基礎的能力を習得するとともに、敷地周辺の街並みの観察、サーベイを通して、街づくりからみた建築の企画・設計の考え方などについても学習します。 |

| **○授業計画** | |
|---|---|
| **学修内容** | **学修課題(予習・復習)** |
| **第 1 週 ： 大学構内のレストハウス(1)ー課題出題と敷地の見学・サーベイ**<br>第1課題、「大学構内のレストハウス」について主旨説明を行います。課題出題に引き続いてグループ編成がなされ、各担当教員より、指導や評価の方法、受講の心構えなどについて個別の説明が行われます。また、各グループ単位で実際の敷地を視察し、敷地の特性や問題点などについて互いに意見交換を行います。 | 資料配布<br>課題制作 |
| **第 2 週 ： 大学構内のレストハウス(2)ー敷地の選定とイメージスケッチの作成**<br>イメージスケッチを作成します。また、あらかじめ設定された3つの敷地の中から、各々が描くイメージに最も相応しい敷地を一つ選択します。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第 3 週 ： 大学構内のレストハウス(3)ー基本設計**<br>敷地調査による分析結果やイメージスケッチ等の情報から、選択した敷地の基本的な配置計画を検討します。また、作成した配置計画と連動して、計画するレストハウスの基本設計を行います。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第 4 週 ： 大学構内のレストハウス(4)ー断面・立面の検討**<br>前回に引き続き、基本設計を行います。空間の用途や動線、家具や植栽の配置など、設計する建物の内外についての具体的な計画に加え、断面・立面の検討により、空間のイメージをさらに固めます。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第 5 週 ： 大学構内のレストハウス(5)ースタディ模型によるデザインの再検討**<br>上記の計画図面に基づいて、簡単なスタディ模型を作成します。模型を見ながらデザイン的な最終チェックを行い、必要に応じて意匠を修正します。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第 6 週 ： 大学構内のレストハウス(6)ー図面のプレゼンテーションと模型制作**<br>最終的な図面の仕上げと詳細模型の制作を行います。図面にはできるだけスケッチの挿入や着色を施し、各自表現方法を工夫してプレゼンテーションします。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第 7 週 ： 大学構内のレストハウス(7)ー課題の提出と作品の講評会**<br>第1課題を完成させて提出します。提出した作品は一旦展示され、さらにその中から数点選んで作品講評会を行います。 | 適宜資料提示 |

| | |
|---|---|
| **第 8 週 ： アーバンスモールオフィスビル（1）ー課題出題と調査計画**<br>第2課題、「アーバンスモールオフィスビル」について主旨説明を行います。課題出題に引き続いてグループ編成がなされ、各担当教員より、指導や評価の方法、受講の心構えなどについて個別の説明が行われます。その後さらに4人程度の小グループを編成し、敷地周辺調査の計画を行います。 | 資料配布<br>課題制作 |
| **第 9 週 ： アーバンスモールオフィスビル（2）ー調査結果と課題の整理**<br>メモや写真による調査結果資料を基に、街の良い点や悪い点などについてグループ内で意見交換を行い、当該ビルを設計するに当たって考慮すべき課題と特性ついて整理します。また、基礎ゼミと連動して「街並み探索マップ」を作成します。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第10週 ： アーバンスモールオフィスビル（3）ーイメージスケッチの作成**<br>設計条件、周辺環境、現実の敷地条件を基に、ボリュームの設定、及びファサードや室内空間のイメージスケッチ等により、建物の基本的デザインを考えます。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第11週 ： アーバンスモールオフィスビル（4）ー基本設計**<br>敷地調査による分析結果やイメージスケッチ等の情報から、基本的な配置計画を検討します。また、作成した配置計画と連動して、計画するアーバンスモールオフィスビルの基本設計を行います。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第12週 ： アーバンスモールオフィスビル（5）ー断面・立面の検討**<br>前回に引き続き、基本設計を行います。空間の用途や動線、家具や植栽の配置など、設計する建物の内外についての具体的な計画に加え、断面・立面の検討により、空間のイメージをさらに固めます。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第13週 ： アーバンスモールオフィスビル（6）ースタディ模型によるデザインの再検討**<br>上記の計画図面に基づいて、簡単なスタディ模型を作成します。模型を見ながらデザイン的な最終チェックを行い、必要に応じて意匠を修正します。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第14週 ： アーバンスモールオフィスビル（7）ー図面のプレゼンテーションと模型制作**<br>最終的な図面の仕上げと詳細模型の制作を行います。図面にはできるだけスケッチの挿入や着色を施し、各自表現方法を工夫してプレゼンテーションします。 | 適宜資料提示<br>課題制作 |
| **第15週 ： アーバンスモールオフィスビル（8）ー課題の提出と作品の講評会**<br>第2課題を完成させて提出します。提出した作品は一旦展示され、さらにその中から数点選んで作品講評会を行います。 | 適宜資料提示 |
| **第16週 ： 期末試験**<br>期末試験は行いません。 | |

| | | |
|---|---|---|
| **授業の運営方法** | （1）授業の形式 | 「演習等形式」 |
| | （2）複数担当の場合の方式 | 「複数クラス方式」 |
| | （3）アクティブ・ラーニング | 「アクティブ・ラーニング科目」 |
| **備考** | | |

| **○単位を修得するために達成すべき到達目標** | |
|---|---|
| **【関心・意欲・態度】** | ①建築設計に対し関心をもち、積極的に課題制作に取り組むことができる。 |
| **【知識・理解】** | ②敷地の調査を行い、その特徴を理解して、課題の建築物の配置計画を適切に行うことができる。<br>③課題の建築物について、その構造計画、平面計画、空間構成を適切に行うことができる。 |
| **【技能・表現・コミュニケーション】** | ④設計した建築作品をよく表現する模型のつくり方を習得する。<br>⑤正確で適切な図面表現の仕方を習得するとともに、わかりやすく美しいプレゼンテーション能力を身につける。 |
| **【思考・判断・創造】** | ⑥課題に対し適切で魅力的な建築空間を提案することができる。 |

| ○成績評価基準（合計100点） | | | 合計欄 | 100点 |
|---|---|---|---|---|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | **期末試験・中間確認等（テスト）** | **レポート・作品等（提出物）** | **発表・その他（無形成果）** | |
| **【関心・意欲・態度】**<br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。 | | **15点** | **10点** | |
| **【知識・理解】**<br>※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。 | | **30点** | | |
| **【技能・表現・コミュニケーション】**<br>※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | | **30点** | | |
| **【思考・判断・創造】**<br>※「考え抜く力」を含む。 | | **15点** | | |

**（「人間力」について）**

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 | |
|---|---|
| **成績評価方法** | **評価の実施方法と達成水準の目安** |
| **レポート・作品等（提出物）** | 提出することが最低条件です。その内容については、単位を修得するために達成すべき到達目標に対し、以下の達成水準を目安とします。<br><br>S：よく満たしている。 A：ほぼ満たしている。 B：一応満たしている。 C：一部分満たしている。 |
| **発表・その他（無形成果）** | 講評会などおいて優れた発表を行ったり、積極的に発言した場合は、記録して加点することがあります。 |